

飯山南コミュニティセンター市長懇談会

○日 時：平成 30 年 8 月 1 日（土） 午後 7 時～8 時 30 分

○場 所：飯山南コミュニティセンター

○参加者：60 名

○担当者：市長

地域担当職員 谷本（税務課）・前原（学校教育課）・香川（クリーン課）・
藤岡（健康課）

1. 所長 開会のあいさつ

2. 会長あいさつ

飯山南コミュニティセンターの市長懇談会にお越しいただき有難うございます。この懇談会は、市長が各地域に参ってそれぞれの地域の話聞く中で、それを市政に反映していくために開かれている。飯山南コミュニティでは、丸亀市危機管理課、香川自主防災、川西から呼びかけがあり、副会長ほか数名が 7 月の三連休に倉敷市真備町へ行きゴミ出し、家具の搬出、畳の搬出等の災害支援ボランティアを行った。また、共同募金会が 9 月 27 日まで、30 年 7 月豪雨災害義援金という箱をコミュニティセンターの窓口に置いているのでよろしくお願ひします。

今日の主題ですが、丸亀市の第二次総合計画、将来像として「豊かで暮らしやすいまち丸亀」ということで 5 つの基本方針、11 の大切なことを皆さんに配布している。都市計画マスタープラン、これについても市長から話がある。丸亀市がこれからどういったことを中心に推進し、県の第二の都市として役割を担っていくかという将来像について話を聞けるのを楽しみにしている。

今日まで、農村環境を保持してきたが、国道 438 号線バイパスの工事により、今までの農村環境、生活環境が一変することも予想される中、第 3 次法の郷まちづくり計画策定委員会を 6 月 29 日に開き、35 名の委員に委嘱した。5 年先、10 年先の地域づくりをどうしていくか分岐点になっている今、みんなの英知を結集して地域づくりの理念である一人の百歩より百人の一步を掲げてみんな地域づくりを進めていく。また移転先のコミュニティセンターの整備が進められていて、2 年先の春には新しいセンターが整備されている。センターの建築にあたってアンケートを全自治会世帯の人に行った。その中で、いつでも自由に使える部屋が欲しいという要望が多かった。その結果、図書コーナーを取り込んだ

90㎡ぐらいの広い部屋を作っていただき、エアコンも設置していただいた。また、調理実習室やウッドデッキを作った。これをいかに活用していくかという話し合いもしてきた。コミュニティセンターは地域の皆さんの活動拠点である。そこで話し合ったことは地域の活力の元となっている。今日の懇談会が地域づくりに役立つ揺るぎない時間になりますよう、よろしくお願いします。

3.市長あいさつ

平成 30 年度の市長懇談会を開催していただき誠に有難うございます。皆様からさまざまな問題について私に聞かせていただき、答えられる範囲で答え、また宿題として持って帰るものは担当や市でお答えする。そしてできる限り実現に努めていくという仕組みでやっているのです、ぜひ皆様の活発なご意見をお願いしたいと思っている。

4.「第二次丸亀市総合計画」、「都市計画マスタープラン（改訂版）」について （市長）

初めに市から配布した丸亀市第二次総合計画、都市計画マスタープランについて説明させていただく。会長がいろいろ話をしていただいたが、飯山南は、丸亀市がこれから目指していこうとしている姿を本当に実現していると改めて思った。合併後最初の総合計画があったが、それについては 10 年計画で平成 28 年度までで一応終了したので、29 年度 1 年間でいろいろ議論をして新しい総合計画を作った。今度の計画は 8 年計画で前期 4 年後期 4 年にした。市長任期があるので、そこが変わると方向性も変わる場合もある。この計画については 5 つの柱を重点としながら、全体としては「豊かで暮らしやすいまち丸亀」をつくろうということです。市民の暮らしに目を向けるというのが今回の特徴である。例えば何か大きな、巨大なプロジェクトではなく、これからの少子高齢化を迎えて人口が減る、高齢者が増える、地域的にもマイナスが出ればまちも変わる、いろんなことがある中で、丸亀市が比較的暮らしやすいという評価をいただいているが、この良さを伸ばしていこうというのがこの計画である。5 つの重点の 1 つ目は、子育てです。子どもの数が減っている。そして若い人達がなかなか子どもを産みづらい環境、それを何とか解消するために保育所の増設、教育の質の改善をする。2 つ目は安心安全です。日常の交通安全、社会資本の整備というのはもちろんですが、災害に強い丸亀にしないといけないということで、これはハード面とソフト面の両方の施策が必要です。3 つ目は産業の振興です。これは若い人が働く場所をどうやって確保するか、市内には優良な企業がたくさんあり、そういった企業が外に出ないよう市内の中で頑張ってくださいと仕組みを考える。4 つ目は

健康づくり、健康寿命を延ばす、後ほど健康まつりのことがでてくるようですが、そういった取り組みをこれからは進めていく。5 つ目はみんなでふるさとを守る、みんなが一緒になって力を合わせて守るということを1つの目標にしていく。これは飯山南の場合、非常によくやられている。例えばコミュニティセンターにしても、先程ご案内があったように、非常によく考えられている。他のコミュニティセンターとは一味違う。地域の人の必要性に合ったものができる。そういった地域の考え方に市もちゃんと対応する、地域の自主性、特性を市もちゃんと汲んでいくのがこれからの1つの方向性だと思っている。これはPR版で、もっと分厚い本編がセンターにあるので、興味がある方はぜひご覧になっていただきたい。

都市計画マスタープランですが、これは丸亀独自に勝手にというわけにはいきません。県全体で20年計画になっている。昨年がちょうど中間に当たったので、少し丸亀のところについて見直しをする。新しい国の法律で立地適正化計画を作っていることになり、それを作ると国の支援が上乗せされることになるので、合わせて作りました。都市機能集約による持続可能な都市構想への転換。要するにどんどん新しいものを作っていくというかつてのような大量生産、大量消費ではなく、今あるものを上手く活用する方向。新しいものを作るにしても、工夫していろんなことに使えるようなものが必要である。1つのものを作るのではなくて、2つ3つの目的を合わせたものを作ることが肝心である。そして都市機能の集約、バラバラに作るのではなく、ある程度まとまりを持って作るということを考えている。丸亀全体でみると大まかに4つの区域を設定した。1つは中心市街地地区。これは合併して、飯山も含めた丸亀の中心というのはどこかということですが、かつては合併協議会の中で新しい市役所は11号線より南ということだった。しかし、合併して広がった地域であるが、その中で都市機能の中心は丸亀城、JR丸亀駅付近になる。これはこの地域の皆さんにも考えていただきたいと思うが、これまでのところは納得いただいていると思うので、市役所はあそこに作ることを決めさせていただいた。また新しい市民会館もあの場所に作らせていただきたい。アイレックスはアイレックスで存続するが、新しいものについてはあそこへ作りたい。なぜまとまって作るかということ、この地域とそれぞれが生活をする地域との間にちゃんと公共交通を中心としたネットワークを結びたいという考えです。あちこちに施設をフルセットでいろんなものを作るというのではなく、1ヶ所に作って、そこにみんなが行きやすいようにしようというのが基本の考え方です。飯山地区、綾歌地区につきましてはそれぞれ地域の拠点、今お住まいの皆さんがその地域のサブ拠点、市民総合センターを中心としたところで、生活圏の中でことが足りるように、わざわざ市役所に行くのをなくすことができるのではないかと考えている。市民総合センタ

一でことが足りるというまちづくりができると思っている。飯山綾歌、総合運動公園区域を設定させていただいた。あそこはJ2の試合、プロ野球オープン戦、あるいはウェスタンも開かれるので、全国からいろんな人が集まれるような交流の拠点と位置づけている。まちづくりの方針としては地域資源を賢く使って豊かな暮らしを作る。それから目指す将来像としては、誰もが誇りと愛着を感じる魅力あるまち、総合計画の考え方と一致しているわけですが、我々が今住んでいる地域を大事にする、住みやすい条件づくりをすることで計画を作らせていただいている。今日も皆さんからいろんなご意見をお聞きして、飯山南の地域で暮らしやすく、また幸せが実感できるような形にするにはどんなことがいいかをお伺いしたいと思うので、よろしく申し上げます。

5.懸案事項

(1) 健康まつりについて（女性）

健康づくりにつきましては、市長、市、保健師、自治会長に大変お世話になり助かっている。今日は「法の郷健康づくり推進委員会」より平成30年度の法の郷健康まつりについて周知報告させていただきたい。法の郷健康づくり推進委員会は平成27年7月23日に設立した。当委員会は飯山南地区に住むすべての人が将来にわたって自ら健康づくりに取り組み、実り豊かな人生が送れるように、包括的な活動を通してみんながいきいき健康と福祉のまちづくりに寄与することを目的としている。当委員会は28年度から健康づくりに関する事業を丸亀市健康課と連携し、1.健康づくり推進のための自治会回覧、全戸配布による啓発活動、2.生活習慣病や重症化予防に関する取り組み、3.生涯を通して健康づくりに取り組めるようライフステージに応じた健康づくり、4.健康に取り組みやすいまちづくり、5.健康講座の開催、6.自治会内での講習会、7.その他健康づくりに関することを計画推進実行してきた。地域コミュニティとしては健康づくりの推進活動が今年で3年目になる。そして健康づくりの推進活動が、健康づくりの重要性、活動への関心がどの程度皆さんに理解され浸透しているのか成果を確認する形として、平成30年9月9日に健康まつりを開催する。その実施要項は、目的として地域の健康づくりを担う健康づくり推進委員が主体となって健康づくりの意識を高め活動に参加し、地域全体に広がるのが健康長寿のまちづくりに寄与することです。目標は飯山南地区に住む全ての方が意識を深めることによって、自分や家族の健康の啓発につながるものと思っている。また住民たちの健康づくりの輪が広がり参加者の交流の場にしたい。9月9日は健康講演会を行う。講演会は、「シニア時代のサプリメント」と題して大塚製薬の方に依頼している。そして丸亀市の保健師による、血管老化度測定、骨密度測定なども行う。また、乳がん、子宮がん検診の啓

発、食生活改善の啓発、健康チャレンジ、塩分測定等。この健康まつりは丸亀市では行われているが、コミュニティで独自で行うのは飯山南が初めてで、役員会を何回も重ねてきた。盛況を願って進めているのでどうぞよろしくをお願いします。

(市長)

健康まつりを意欲的に取り組んでくれてありがたい。血管老化測定、骨密度測定などは市の保健師が対応すると聞いている。市でもできる限り支援をしていきたいと思っている。また、スポーツレクリエーションの担当にも声をかけてもらったらできることがあると思う。今後ともよろしくをお願いします。

(2) 都市公園の整備について (男性)

丸亀市の緑の基本計画が 5 月 22 日に開催され都市環境委員会協議会で審議されたと聞いた。その計画書、地域別の整備方針の中で、438 号沿いの飯山地域中心部を対象に「公園整備重点ゾーン」として飯山南小学校付近までを設定いただきありがとうございました。地域整備方針においては、新たな公園整備を行う際は地元コミュニティや地域住民と協議を行い、地域住民のニーズに沿った公園整備を積極的に進めていくという記載がされていた。私達の地域が公園整備重点ゾーンの計画に認められたことを受け、コミュニティでは計画実現のため、市民参画のもと行政と連絡を密にしながら仕組みづくりを立ち上げてきた。さらに公園完成後の維持管理のルールづくり、魅力的な活用についても議論を重ねている。近年、車による交通アクセスの利便性から宅地化が進むとともに、国道 438 号バイパスも工事が進んでいる。この光景を目の当たりにしてようやくここに来て都市化にむけた周辺環境が大きく動き出す感がする。そこで私達は地域の環境変化を踏まえてバイパス開通後のまちづくりをいかに進めるべきか対応の仕方を議論している。今こそ地域力を発揮し、法の郷が目指す基本理念に沿って活動到来と捉えている。丸亀市では、コミュニティセンター移転整備について、敷地造成、建築工事が順調に進み、地域にとっては活動拠点として完成が待たれる今日、誠に有難く感謝に耐えません。公共施設投資は地域の活性化をもたらす効果がある。中でも都市公園は訪れる人達に安らぎと潤いを与え地域の賑わいづくりにつながっていくものと考えている。児童は大人と子どもの関わりの中で培われ、たくましく生きる力が育つといわれている。幸い私達の地域は中高生との連携が上手く根付いており、未来を担う子供たちが可能であれば中高校生の公園づくりの参画が地域への愛着とまちづくりへの関わりが誇りとなって、ボランティア支援という形で地域力を発揮してくれると思っている。高齢者も楽しめる健康遊具ゾーン、子ども遊具ゾーンに加えて簡易な防災施設、災害時の避難所防災拠点施設として多目的機能を有する公園は良好な関

係を生み出す機軸になると信じている。買物帰りにちょっと寄り道の都市公園には人が集い、語り合う場所にはベンチがあり、遊具で体を動かす人、元気に走る子供たち、人と人をつなぐふれあいの里、丸亀市が誇るシンボル公園として育てていく所存です。平成 30 年 3 月都市公園整備研究委員会の募集のチラシをコミュニティだよりと一緒に全戸配布し、募集を行った。4 月末のコミュニティ総会には、都市公園の整備等を目標に 438 号をプラスに、法の郷の未来に向けた都市化に向けたスタートをした。6 月 29 日第 3 次まちづくり計画の策定委員会を開催し、広報に載せている。2 回目は来年の 1 月ごろに開催して地域づくりの指針となるまちづくり計画の素案をまとめる予定である。7 月 3 日には、公園の整備とセンター活用につき、東かがわ市の相生コミュニティセンターを視察研修し食堂運営、小学校跡地公園管理を学んできた。都市公園計画決定に向けた事業手続きを行えるよう、よろしくお願いします。

(市長)

緑の基本計画の中で公園の整備重点ゾーンという位置付けがされたので、今後は国に対してもあるいは市の方でも財源の手当てという段階へ進んでいく。もう 1 つのお願いは活用です。作る以上は皆さんがどれだけ活用していただけるか、あるいは地域がそこに関わっていただけるのかがこれからの必須条件になると思うが、その点は皆さんでルール作りをしていただいて、このルールがこれからの丸亀市全体の基本ルールになると思うので、そのつもりでお願いをしたいと思う。それを我々も 1 つの基準にしながらルール作りを進めたいと思う。来年度予算に向けて頑張って参るのでよろしくお願いします。

(3) コミュニティセンターでのレストラン企画運営について (女性)

まず病気にならないためには食生活とストレスをためないこと。この両方が叶えられるレストランがコミュニティにあればいいなと思う。コミュニティレストランのことを少しお話したい。東かがわ市の相生古里庵を視察した。そこは一週間当番制になっていて、あとはうどん店をしていた専門の人とか、婦人会、おやじチーム、イタリアン料理の達人な人とかが交替でしていた。廃校を利用して厨房をきれいに整備し、IH とガスが両方完備されていた。婦人会の話だと冷凍食品は使わず手作りで喜んでもらっているようです。次にワークショップでいろんな意見が出ました。ウッドデッキを設けるので野外食事会、バーベキューなど四季を通してイベントをしたい。子どもと大人と一緒に過ごせるように夕涼み会、そうめん流しなど当番制にして男性にも関わってもらう。女性はいつも家族の為に食事の準備とか片付けに追われているので、こういうところでは男性の手料理を食べたい。若いお母さんのグループからは、母親と子どもが集えるカフェ空間、ウッドデッキ

を利用した子ども会、スポーツ少年団のパーティー、子ども食堂、屋根があれば雨の心配もいらないし、暑い日も少しは凌ぐことができる。週1回から3回モーニング、ソフトクリーム、コンビニのようなセルフコーヒーなどの意見が出た。本当に言うのは簡単ですが、するとなるとなかなか難しいことがたくさんあると思う。コミュニティレストランを開設したい目的は、楽しく働き美味しく食べるというくつろぎの場を与えることです。飯山南地区は食堂が少なくうどん店も1ヶ所、ラーメン店も1ヶ所しかありません。高齢者の生きがいつくりの場、女性が子育てをしながら働ける場、安全安心な食の提供、循環型地域づくり、農家との連携、朝市野菜の収穫祭、地域の賑わい作り等、以上の課題解決のため5つの実践項目に取り組む。地産地消を進めます。健康づくりを応援します。地域の食卓の場、誰もが安心して利用できるなど循環型地域づくりのため取り組みます。地域食堂の1ヶ月の目標としては、健康づくりの日、高齢者の日、子どもの日、農繁期には農家の日で、開催時間は12時から1時ぐらい。具体的なことはまだまだ検討していく必要がある。健康であるために必要なことは本当に食生活で病気にならないように体の良いものをしっかり食べ、笑顔になれるのがコミュニティレストランです。安心安全で体に良いものを提供し、仲間と会話をしながら楽しく食事ができる、コミュニティレストランに行けば元気になれる、そんな笑顔あふれるコミュニティレストランになればいいと思う。市の条例もあると思うがよろしくをお願いします。

(市長)

本当に素晴らしい企画で、市民の皆さんの力を感じるような内容であり、新しい形のコミュニティセンターであると思う。昔あった農村改善センターはそれ以外の目的で使ってはいけないという縛りがあった。これからは、いろんな目的での使い方になってくる。制度的にそれができないのであれば、制度を見直して、地域に必要なものを実現していただくように取り組みたいと思う。今の企画には全面的に賛同しますので、これが実現できるよう、一生懸命みなさんと共に頑張っていくのでよろしくをお願いします。

6.自由討議

①避難所の整備について（男性）

最近特に感じていることは、非常に災害が頻繁に発生している。それも数十年に一度の災害が二年連続で発生している。こういう災害はどこでも起こりうる、そういう時代になっているのを感じる。それでやはり文化的な暮らしというのは、もちろん未来があって素晴らしいことだとは思いますが、今一番何が必要かということ考えた時に、豊かな暮らしの前に、安全な暮らしというのが第一だと思う。安心して暮らせる、これをもっと基本に取り

組むべきじゃないかと思う。今ちょうど市民会館の建設の計画が進んでいるが、市民会館建設もいいですがそれよりも私は今もっと優先的に取り組んで欲しいと思うのは防災施設です。何を具体的に取り組むかという、災害が発生したときに避難所で避難生活をおくる。これからはそういうことが発生し得ると思うので、その時に今の市の避難所で十分安心して避難生活が送れるかどうか、ここが一番気になるところです。市のコミュニティセンターが移転して新しくできるということですが、災害が起きた時市民が安心して避難生活を送れる、そういう施設を整備する必要があると思う。防災訓練などには取り組んでいるが、残念ながら施設整備に関してはまだ具体的な計画もないと思う。まず行政としてそちらに力を入れていただきたい。そして市がどのような取り組みを考えているのか教えていただきたいと思う。

(市長)

本当におっしゃる通りで災害は必ずこれから増えると思う。この暑さ自体も異常ですし気候変動が尋常ではない。その中で丸亀市としては災害の危険な場所というのがある。飯山でいえば、大東川の問題、土砂災害の警戒の場所などです。ハード的な対策としては、そういうところに砂防的なことをする。そういうことが考えられるが、なかなか全ての箇所に砂防を作るのは費用対効果で大変である。大東川のように明らかに改修が必要なところは計画的にやる必要があるが、県とも相談してやっていきたい。避難所の問題ですが、コミュニティセンターも当然考えていて、いざ避難生活ということになればそこが一番の避難所になるわけです。体育館に避難するというのもあるが、体育館というのは人間が暮らす場所ではないので、丸亀としてはあくまでも一時的な避難の場所で、そこでずっといるということは想定すべきでない。ですから全ての避難者に対応できるような避難所を別に作るというのは、はっきり無理だと思っている。そうではなく普段センター等で使っているところをいかに何かがあった時に上手く転用できるかということを考えていく必要がある。決してハード面の対策をしないということではなく、災害が防げるような方法は取るが、それ専用の避難所の建物を作るということまではまだいっていないので、そこは今ある建物をどれだけ上手く使うか、運用でどうやったら皆さんが快適に生活できるかということを考える必要がある。自主防災の皆さん、あるいは飯山南の皆さんも今回災害の支援に行かれたが、これはいい経験になって今後丸亀市の中で何か起こったときにコミュニティ間で助け合う。それが今の丸亀ではできるのではないかと思うので、その方向で今後進めて行きたい。ぜひご理解をいただきたい。また、皆さんがお気づきのところがあればご意見をいただきたい。

②免許証返納の特典について（男性）

現在お年寄りの人口が増えつつあるということで、75歳以上になると免許証返納を考えている。旧丸亀市内であればある程度交通の便がいいと思うが、飯山になるとコミュニティバスがあるが、これも幹線道路しか走っていないので、買物に行くにも行けない。それで免許を返したいが交通の便が悪くなるので返したくても返せない。何歳になっても車の運転をしなくてはいけない。免許証を返したら何か特典があるとかいったことがあればいいんですけど。これは日本全体のことでありますが、我々の自治会も年寄りばかりで、1人だと孤立して死んでも分からない。特典が何かないかなあと思うんですが、市として何かいい案があれば教えていただきたい。

（市長）

これは大事な問題で、丸亀市はコミュニティバスが基幹の公共交通ということで位置付けており、このバスをどれだけ利便性をよくするかというのが課題です。しかし本数を倍くらいに増やさなければならぬ、そうすると当然予算も倍必要になる。そこがなかなか難しい。全国でも進んでいるのがボランティアによる有償運送。コミュニティの中で、自家用車を使った移動支援。コミュニティバスが行かないところはこういうものも作る必要性があるのではないかとということで、今研究をしている。せっかく素晴らしいコミュニティセンターを作ってもそこに行けないのでは何にもならないので、それを地域の中で研究していただいて、市としても制度的に国に要望して支えるようにしたい。それから免許の返納の特典ですが、今のところコミュニティバスを半額ということにしているが、将来は無料という形にしていきたい。免許返納者だけというのは困りますから、一定の年齢になれば無料で乗れるということで検討を進めさせていただいている。若干関連になるが今回、77歳の敬老祝金を廃止させていただくことになった。こういった予算も高齢者の移動支援とか本当に必要なものにまわすということで検討している。ご意見を受け止めて、検討させていただく。

（会長）

有償ボランティアについてお話を聞いたんですが、制度的にどのような形をとればできるかというのをぜひ検討していただいて、その案を提示していただければ即使えるのではないかと思います。平成25年から助け合いサービス事業をやっていて毎年20数件あった。しかしここにきてちょっと減ったのは、どうしてかなあと思ったら、今はもう頼まれるのは掃除ばかりです。それも家の中でなく、屋敷の掃除でもなく、畑をやってくれということとです。一番要望が多いのは買物をしてくれないかということと、病院に連れて行ってくれないかということとです。病院に連れて行くのは自分でバスで行っていただいて、それで

別便で車で行く。そういう対応で受付して支払いをするという手間なことをやっておりますが需要がなくなってきた。買物は自分の欲しいもの、自分の気に入ったものを買いたいということで、始め件数は多かったんですがやっぱり減ってきた。車に乗せて行ってもらえず、お金だけあずかって買物してきてもらうということからすると、この有償ボランティアという制度に乗せていただくと、今1時間700円いただいて、それでサービスをしている。陸運協定でいろんな許可をいただく方式を作っていただければ、即困っている人の足になるのではないかと思いますのでよろしくをお願いします。

③自治会加入について（男性）

市内を走っていたら自治会に加入しましょうというたて看板をよく見かける。市の方から見たら自治会というのは住民の有志の団体ではあるが、実際のところは、行政の一部を自治会が担っているという部分もあると思う。今日も育成費をいただいたが、金額が本当に少ない。しかも小額でちょこちょこいただく形になっているので、自治会で何かの活動をしようと思っても非常に使いにくい、それよりも自治会に年間まとめて一括で出してください、その中で自治会で自由に活動できるよう一本化した助成金にならないかというのが1点。もう1つは自治会の会員の中に市の職員がいるが、あまり自治会の活動に積極的でない方もいる。市の方で自治会に入りましょうとPRしていながら、肝心の市の職員が自治会の行事にあまり熱心に参加しないという実態がある。市長にとり職員は部下なので、そういう職員に対しては徹底して指導していただきたいというのが自治会長としてのお願いである。

（市長）

金額の問題は、他のところからも言われており、限られた予算の中でできる限り皆さんが一生懸命やっているのがっかりしないように頑張りたい。それから市の職員ですが、市の職員だから絶対にしろ、献身的にやれともなかなか言えない。市の職員といえども一般の市民と同等です。しかし当然私の個人的なお願い、市の姿勢としては、自治会というものは非常に大事であって、加入するだけでなく活動しましょうということもお願いしている訳ですから、あと市の職員の自覚として積極的に協力して下さいということは私の方から強くお願いする。

④農業後継者問題について（男性）

この地域は農家をやっている世帯が結構あるが、後継者の問題、非常に高齢化している。若い人が農業をしないという問題はこの地域だけでなく、日本全体そうだと思う。行政も

積極的に法人化、大規模化して後継者問題、農家の問題を、市がリードして積極的に取り組んでいただきたいというのが要望である。

(市長)

市としては極力農地を減らさない、そして後継者になっていただくように、食べていける形、ということで法人化、大規模化を中心に取り組みをしている。農業委員会も法律が変わり、実際に農業をやっている人、主に担い手を中心にやっていただけるようになり、かなり活発にいろいろなご提示をいただいている。これがなかなか決定打ということにはならないが、我々も一生懸命取り組むべき課題として考えていきたい。地域の中でもいい方法を考えていただき、法人化大規模化すると同時に、家族農業は守り農地も少しでも保全できるような方法や工夫を一緒になって考えていきたいと思っている。よろしくお願ひします。

7.副会長閉会のあいさつ

本日は暑い中大勢の人にご参加いただき市長懇談会が開催されましたことお礼申し上げます。また大変お忙しいところ市長を始め、香川県会議員、丸亀市市議会議員にも出席いただきありがとうございました。本日は大変貴重なご意見をたくさんいただいた。今後ともコミュニティにご協力をよろしくお願ひします。本日はありがとうございました。